

“当たり前、への感謝

北野佑衣（富山・滑川市立滑川中学校）

四月。新学期。毎年新しく配られる教科書に新学年になったのだと実感が湧いて心が躍る。そんな新品の教科書を手に取り、裏に記名しようとする、こんな文が書いてあるのをよく目にする。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と。私はこれを読んだ時、大切にしなければいけない、そう思うだけだった。この作文を書くまでは。

日本では義務教育期間の九年間に一人当たり約八百四十五万円もの多額の税金が補助金として使われているそうだ。その他、教科書以外にも机や椅子などの備品、実験道具、給食などにも税金によって負担されている。学校の教育題材は税金で溢れ返っていたのである。知らないことばかりだった。当然のように通っている学校。それは、多くの国民が一生懸命働き、税金を納めてくれているからこそ私たちは様々なことを学ぶことができているのだと知り、とてもありがたみを感じた。

そんな時、ふと、小学六年生で学習したSDGsのことが思い浮かんだ。外国はどうなのだろうか。SDGsには「四、質の高い教育をみんなに」という項目がある。しかし外国には発展途上国が多くあることも現状であり、勉強をやりたくてもできない人もいれば、まともな生活を送ることですらできない人も多くいる。今の暮らしがあるのは、税金があるからで決して当たり前ではない。そんな中で今、何不自由なく生活し学べる場所があるのは、とても幸せなことだと感じた。

中学生が今できる税の社会貢献は消費税を払うくらいだろう。私は今まで、何かを買うときには自分が所持しているお金を価格以上の金額で払わなければいけないと捉えてしまい、どちらかといえば税金にマイナスのイメージを抱いていた。しかし、一方で、税金は子供の未来を思って使われていることを知って、税に対してのイメージが百八十度変わった。そして税金は、生活を支えている必要不可欠なものだと今まで以上に気付かされた。国民にとって税金は欠かせない存在であり、そのお金を使って身近なところで私たちを救ってくれている。自分が払った税金が知らない誰かのためになっていると同時に、自分をも税金に助けられていたのだ。だからこそ、毎日を当たり前と思わず税金に感謝すべきなのだと、私は思った。

また、納税は「納めるもの」であり、「取られるもの」ではない。そんなマイナスな意識を変え、年齢関係なく国民一人ひとりが税金の使い道や生活との結びつきを理解することができれば、税金を納める姿勢も変わって納税に関してもっと前向きになると思う。

私は、税金があるからこそ成り立っているこの社会に貢献するために、大人になって立派な納税者になれるよう日々学び続けていきたい。